

渡来人と関連?

吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)が所有する千手観音像が、中国大陸や朝鮮半島の仏像と似た特徴を持っていることが、民間研究所の仏教造形研究所(東京都あきる野市)の本間紀男所長らの調査で分かった。同町

一帯は渡来人の文化の色濃い地域として知られ、関心が寄せられている。同寺の開山五百年を記念する寺史編さんのため、本間所長と真立文書館の岡部央さんらが、寺所有の全四百二十体の仏像を調査した際に分かった。観音像は本堂に祭られているほか、衣の形に朝鮮半島や中国大陸の影響が見られるという。

同町の歴史や地域性が祭るために生まれた像ではないかと推測している。また、縁起書には、多胡碑に代末から南北朝時代よりまつわる伝説上の人物「羊太夫」のゆかりの品も古い時代に作られたとみられる。

渡来人との関連が指摘された仁叟寺の千手観音像

面長の顔に大陸風衣装

吉井・仁叟寺千手観音

また、縁起書には、多胡碑に代末から南北朝時代よりまつわる伝説上の人物「羊太夫」のゆかりの品も古い時代に作られたとみられる。



渡来人と関連?

面長の顔に大陸風衣装---吉井・仁叟寺千手観音---